

週 報

国際ロータリー第 2660 地区

令和 7 年 12 月 2 日



よいことのために
手を取り合おう

2025~26 年度
国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツオ
(イタリア、ラグーザ RC)

豊中ロータリークラブ

広めよう ロータリーの心 地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

Rotary

Toyonaka



2025.7~2026.6
会長 松本 悟
副会長 矢口正登
幹事 藤田充男
雑誌・広報・会報委員長
都井正剛

本日 (12 月 2 日) のプログラム

「現状報告」

—今年一年を振り返って—



次回 (12 月 20 日) のプログラム

「年末家族会」

場所: ホテル阪急インターナショナル

◆会長の時間◆

「和を以て貴しと為す」

2025-26 年度 会長 松本 悟

連休中、少し出かけようかと思い立ち、「近つ飛鳥 風土記の丘」という所に行ってきました。

多くの場所は行楽客で混雑しているので、あまり聞いたことがない所で、少しは紅葉を楽しめる所はないかとか思い、その場所に出かけてきました。

そこは大阪府南河内郡太子町にあります。古の頃、難波から飛鳥の京 (みやこ) を結び、大陸からの使者や遣隋使等も行き来していたと云われる竹内街道という日本最古の官道が通る地です。そして、この地域は飛鳥文化の香りが漂っていて、奈良の飛鳥を「遠つ飛鳥」と呼び、この地は「近つ飛鳥」と呼ばれていたそうです。

また、この地は推古天皇をはじめ天皇・皇族の古墳が集中していて、エジプトの「王家の谷」になぞらえて、「王陵の谷」とも呼ばれています。そして、あまり知られていませんが、この地には聖徳太子の御廟があります。太子町は聖徳太子に因んで、名付けられたようです。

聖徳太子御廟は、叡福寺というお寺の奥にあり、お参りしてきました。どちらかと言えば、こちらの方が行きたかった場所でした。少し階段を上って入った境内はきれいに整備されていて、二重の塔があり、静かな小さな盆地の中で、何となく大和の国の雰囲気を感じました。

聖徳太子といえば、日本で最初の成文法とされる十七条憲法を思い出します。その第一条が「和を以て貴しと為す」です。調和を大事にし、個よりも公を重んじ、チームワーク、さらには無私の心を尊いものとし、日本人の DNA に「和の精神」を根付かされる教えになったとされています。西欧の個人主義も重要視されつつありますが、僕は、この「和の精神」の方に納得することが思いのようです。

ちなみに、「近つ飛鳥風土記の丘」は、・・・。

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場: 〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内
TEL 06-6858-1551 FAX 06-6857-0011

例会日時: 毎週火曜日 12 時 30 分より
事務局: 9 時~15 時 (土日祝を除く)

HP アドレス: <https://toyonaka-rc.jp>

メールアドレス: jtrc2660@sun-inet.or.jp

◆11月18日の卓話◆

「茶席の掛け軸に見る禪の世界」



卓話担当：村司辰朗



稽古事において本当に大切なことは、技の上達そのものではなく、稽古を通して心を澄ませ、自らの生き方を静かに整えていく姿勢にあります。茶道や華道の所作は、折り目正しく細かな形が連なりますが、その形は決して目的ではありません。先人が歩んだ心の道筋が形となって今に伝わるものであり、私たちがその形に身を添わせることは、自らの内側を見つめ直す機縁となります。花を一輪いけるとき、茶を一服点てるとき、思い込みや雑念がふと薄れ、心の深いところに静けさが戻ってくる。その安らぎこそが、稽古事の真の価値といえるでしょう。

その心を象徴的に示すのが、茶席に掛けられる掛け軸です。掛け軸は単なる装飾ではなく、席の趣向と主客の心を結ぶ最初の言葉であり、茶会全体の「心の方向」を示す羅針盤のような存在です。とりわけ禪語の軸は、客人の心を一瞬で静寂の世界へ導き、日常のざわめきをふと手放させる力を持っています。

「閑座聴松風」という禪語もその一つです。静かに座り耳を澄ませば、松風の音が自然と聞こえてくる——という句ですが、ここで言う松風とは、実際の音だけではありません。外の喧噪を離れ、余計な思いを脱ぎ捨てたときに初めて聞こえる、心の奥に流れる静かな響きのことです。茶の湯では、釜の湯がたぎる音を松風に喻えますが、その音に耳を寄せるひとときは、自己と向き合う深い時間でもあります。

稽古を続いていると、形を整えることよりも、形によって自分の心が整えられていく瞬間が増えています。「閑座聴松風」は、その気づきを象徴する言葉です。静かに座ることで、周囲の音も内なる想念も、次第に澄んでいく。松風の響きは、その澄んだ心にのみ届くものなのです。

教室で重ねる稽古の時間は、技の習熟以上に心の姿勢を育てる営みです。掛け軸にしたためられた禪語は、その道を歩む私たちに静かに寄り添い、日々の在り方をそっと照らしてくれます。茶席の軸は、目には見えぬ心の中心を示す“見えない柱”として、今も変わらず大切な働きを担っているのです。

⇒出前授業報告⇒

2025年11月5日（水）に能楽師の山本博通様が豊中RCより豊中市立十八中学校に出前授業に行ってくださいましたので皆様にご報告いたします。下記は豊中市立十八中学校教頭の谷口博信様が送ってくださいました学年だよりです。

豊中市立第十八中学校 38期

学年だより

令和7(2025)年
11月13日(木) 第30号

『能』の出前授業がありました！

先週の11月5日（水）の3,4限に、音楽の授業で「能」の出前授業がありました。体育館で日本の伝統芸能である「能」について学びました。能楽師の山本博通さん（能楽協会）を講師にお迎えして、「能」について自身の経験を交えたお話と、迫力のある実演があり、みんなとても真剣に聞き入っていました。普段、あまり馴染みのない「能」を少し身近に感じることができたように感じました。

また、授業の中では映像による「能」の解説や、「高砂や」を全員で歌う場面もありました。「能」の独特な歌い方やイントネーションは、とても難しかったと思いますが、とても貴重な体験となりました。

そして、最後には舞台で使われる「面」の紹介と解説、「面」を着ける体験もありました。実際に「面」を着けてみると視界が非常に悪く、距離感がつかみづらく、とても大変そうでした。授業が終わってからも、展示された面をたくさん的人が手に取って、触っていました。



寒くなってきましたね 🍂 寒くなり、感染症が心配な季節になってきました。受験生は、勉強はもちろん大事ですが、体(体調)も大事です！うがい、手洗い、適度な睡眠、この3つを心掛けて、38期生みんなで受験を乗り切りましょう！！！